

## 神経内科

### 研修指導者名

高嶋 博	渡邊 修	松浦 英治	岡本 裕嗣
荒田 仁	橋口 昭大	東 桂子	道園 久美子

### メッセージ

昭和46年10月、井形昭弘初代教授から始まった、第三内科創設以来の以下の教えが脈々と受け継がれています。

- 1) 患者の病を治すために努力することが医の原点である。
- 2) 原因のない病気はない。原因を見つける努力をすること。
- 3) 地域に根ざした医療の中から国際的な仕事を。

つまり、「患者さんのために一生懸命にきなさい」という心得が受け継がれています。この井形イズムと呼ばれる教えについては、二代目の納光弘教授により大きく発展したのは周知のとおりです。平成22年から第三代教授として、高嶋博教授が就任されています。平成2年鹿児島大学卒業で、鹿児島大学の臨床系教授の中ではもっとも若いですが、エネルギーに活動し、診療・研究が進展しています。旧第三内科から神経内科・老年病学講座として、高齢化社会への対応を講座の基本方針として打ち出しています。従来からの神経難病への取り組みは変わりませんが、アルツハイマー病など認知症の増加、ミトコンドリア病、プリオン病、自己免疫性辺縁系脳炎など新しい疾患概念の出現、鹿児島県に特有の神経感染症などの発見や治療法の開発など、時代の流れに対応した診療体制を確立させています。多くの研修医が大学病院病棟にて、後期研修をスタートします。3C病棟を中心に20~25名の入院患者を診療しています。病棟医長以下、初期研修医を除く9名の医師がグループに分かれてチーム医療を実践しています。当科の教育体制の特徴は、屋根瓦式のチーム体制です。すなわち指導医-後期研修医-初期研修医-医学生が一つのチームを作り、主治医団として診療します。臨床をサポートする神経生理検査（筋電図）部門、神経筋病理部門も充実しており、いずれも国内トップレベルで、後期研修を通して、理論と手技を習得します。研究体制も充実しています。分子遺伝学による神経疾患研究は当科の大きな柱と言えます。近年の遺伝子検査技術の進歩は予想をはるかに超えており、当科にもヒトゲノム全体を数日で解析可能な次世代シーケンサーが複数稼働しています。遺伝性疾患だけでなく、当科が確立したHTLV-1関連脊髄症（HAM）発症の遺伝的要因や神経感染症の早期診断などの臨床研究にも応用しています。神経内科は、専門性が高すぎて、General Internal Medicine(GIM)とかけ離れていると考えがちですが、診療には、History Takingのスキルアップが必須で、神経診察で、全身くまなく、視診・触診しますので、総合内科に最も近い診療科です。実際、鹿児島市立病院や今村病院分院内科ERで、多くの先輩が感染症を中心に総合内科的なスタンスで診療しています。

### 研修目標

「人間性豊か」、「研究心旺盛」で、さらに「地域に貢献」し「国際的視野」に立てる、医学・医療の担い手となるため以下の目標を設定する。患者との信頼関係の構築、内科的診療のプランニングおよび遂行能力の習得、各専門分野の標準的医療技術および知識の習得、高度医療技術の適応と手技の理解



### 研修可能技能

内科医としての一般的な臨床手技に加えて、神経専門医コースとして神経診察、筋生検や神経生検などの神経病理、電気生理学的検査などの臨床生理学的評価法、神経放射線学、神経遺伝学、神経分子生物学、そして神経救急領域を含む治療法を修得する。また、患者さんの立場を守るために社会福祉制度に習熟する。

### 取得できる専門医資格技能

日本内科学会認定医（4年）、日本神経学会専門医（6年）、日本内科学会総合内科専門医、日本感染症学会専門医、日本脳卒中学会専門医、日本血管内治療専門医、日本頭痛学会専門医、日本認知症学会専門医、日本臨床神経生理学会認定医（筋電図および脳波）、日本リウマチ学会専門医

### 特徴

地域の基幹病院で、神経疾患の三つの柱である脳血管障害、神経救急疾患、神経難病について研修していきます。

#### 脳血管障害

脳卒中ネットワークを構成する鹿児島医療センター脳血管内科、今村病院分院神経内科、厚地脳神経外科病院神経内科などで最初の研修を行います。希望者は、国立循環器病センター脳血管内科・脳神経内科に国内留学し、国内トップクラスの診療を経験します。また症例数の多い聖マリアンナ大学東横病院脳卒中センターに国内留学し、難関の血管内治療専門医の習得も可能です。

#### 神経救急疾患

鹿児島市立病院神経内科と鹿児島市医師会病院神経内科で、髄膜炎、脳炎、てんかん重積などのneuro-emergencyの症例を経験します。この後、神経感染症に特化し、日本感染症学会専門医を習得した先輩もいます。

#### 神経難病

筋ジストロフィー病棟が併設されているNHO南九州病院およびNHO沖縄病院で、神経難病を中心とした研修が可能です。

### 研修参加条件

卒後臨床研修修了者

### 研修施設

鹿児島大学病院、鹿児島市立病院、国立病院機構鹿児島医療センター、国立病院機構南九州病院、国立病院機構沖縄病院、大分県立病院、鹿児島市医師会病院、慈愛会今村病院分院、昭和会今給黎総合病院、三州会大勝病院、川内市医師会立市民病院、菊野会菊野病院、八日会藤元総合病院、鹿児島県立北薩病院、鹿児島県立大島病院、恒心会おぐら病院

### 研修期間

学位（大学院コース進学後3年から4年終了後）日本内科学会認定医（4年目終了後）、日本神経学会専門医、日本内科学会総合内科専門医、日本リウマチ学会専門医、日本感染症学会専門医（6年目終了後）



研修プログラム

当科では、初期研修から卒後10年間のキャリアパスを以下の様に設定しています。多くの方が大学病棟1年+地域の関連病院2年の合計3年間の後期研修を受けます。その後は、研究を開始するために大学院入学する方、脳卒中学を究めるためにナショナルセンターへ国内留学される方など、本人の希望に沿って、多彩なプログラムを用意しています。学位取得後に海外留学の道も開かれています。

【女性医師のキャリアアップ】

開講以来、多くの女性医師が研修を行っています。専門医取得後、臨床神経生理診断（筋電図）のコンサルタント、認知症外来、頭痛外来など、より専門性の高い診療を続けており、老健施設長として活躍するなど選択肢は様々です。

安心して出産・育児が行えるよう医局がサポートしています。

【地域枠の先生方への対応】

下記の地域中核病院に常勤医を派遣し、診療・教育体制を整備しています。また地域枠の先生の研修開始に合わせて、県立大島病院への再派遣を検討しています。

県立大島病院（再派遣予定）、県立北薩病院、川内市医師会立市民病院、肝属郡医師会立病院、菊野病院（南九州市）、恒心会おぐら病院（鹿屋市）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
A			大学病棟	学会教育認定施設での臨床研修		大学病棟	教育関連病院スタッフ		
B	卒後臨床研修		学会教育認定施設での臨床研修		大学病棟	学会教育認定施設での臨床研究	大学院臨床研究		
C			大学病棟	大学院臨床研究			学会教育認定施設での臨床研修		

医局の様子



研究成果の発表



医局旅行  
嘉例川駅



病棟医局



合同症例研究会



医局旅行「ラフティング」

現在研修中の医師数

	大学内(うち大学院生の数)		大学外
卒後3年目	4	(0)	0
卒後4年目	1	(0)	5
卒後5年目	0	(0)	4

## プログラムの募集人員及び選考

- 【募集人員】 制限はありません  
【選考】 面談

## 研修と大学院の関係

初期研修終了後の3年目から大学院進学コースを設置しています。基本的に大学院在学中の学外研修は設置していませんが、学位修得後に学外施設での研修および留学コースを設置しています。

国内留学先：国立循環器病センター（2名留学中） 聖マリアンナ大東横病院（1名留学中）

海外留学先：バイラー大、米国国立感染症研究所、メイヨークリニック、オックスフォード大など

## 処遇

大学病院医員

## 研修終了後の進路

各専門医修得後は教育関連施設あるいは大学病院での診療、教育指導にあたります。

国内、国外留学などの更なる研鑽も奨励しています。

## 指導医・専門医

日本内科学会指導医8名、日本内科学会専門医5名、日本神経学会専門医多数名、日本神経学会指導医34名、日本脳卒中学会専門医6名、日本血管内治療専門医2名、日本認知症学会専門医1名、日本神経生理学会認定医10名、日本感染症学会専門医4名

## プログラムに関する問い合わせ窓口

鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 神経内科・老年病学

〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号

電話：099-275-5332

FAX：099-265-7164

E-mail：mw90@m3.kufm.kagoshima-u.ac.jp（医局長 渡邊）

HP： <http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~intmed3/>

